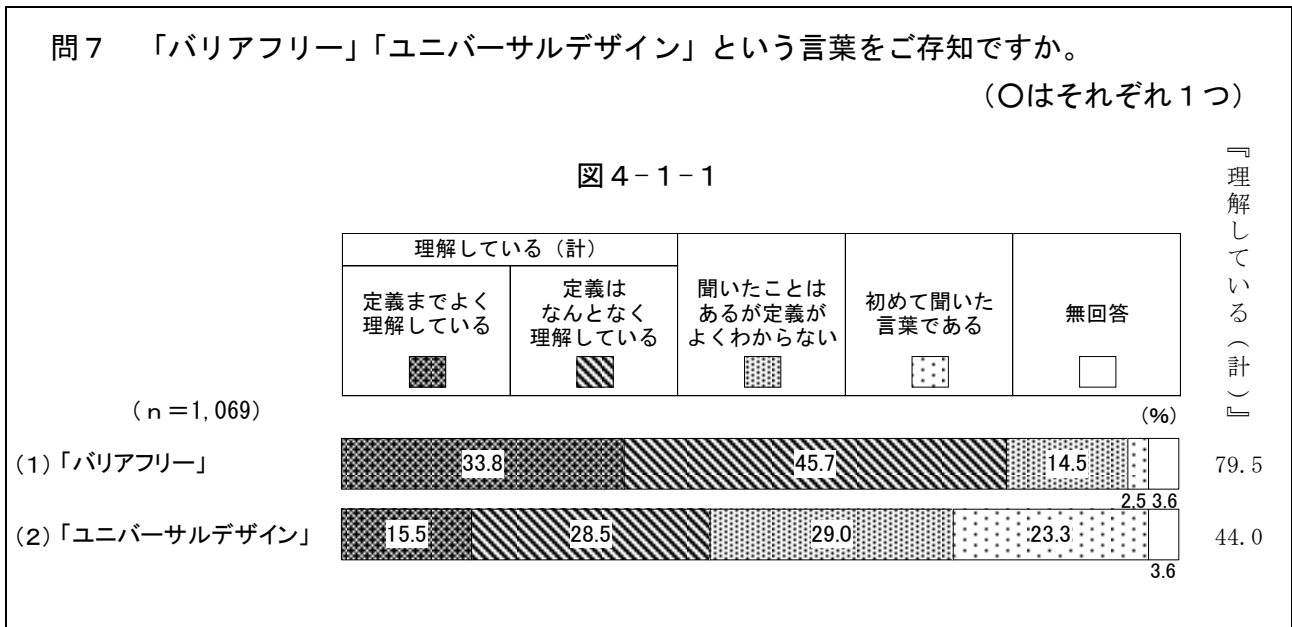


#### 4. バリアフリー・ユニバーサルデザイン

##### (1) 「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」の認知度

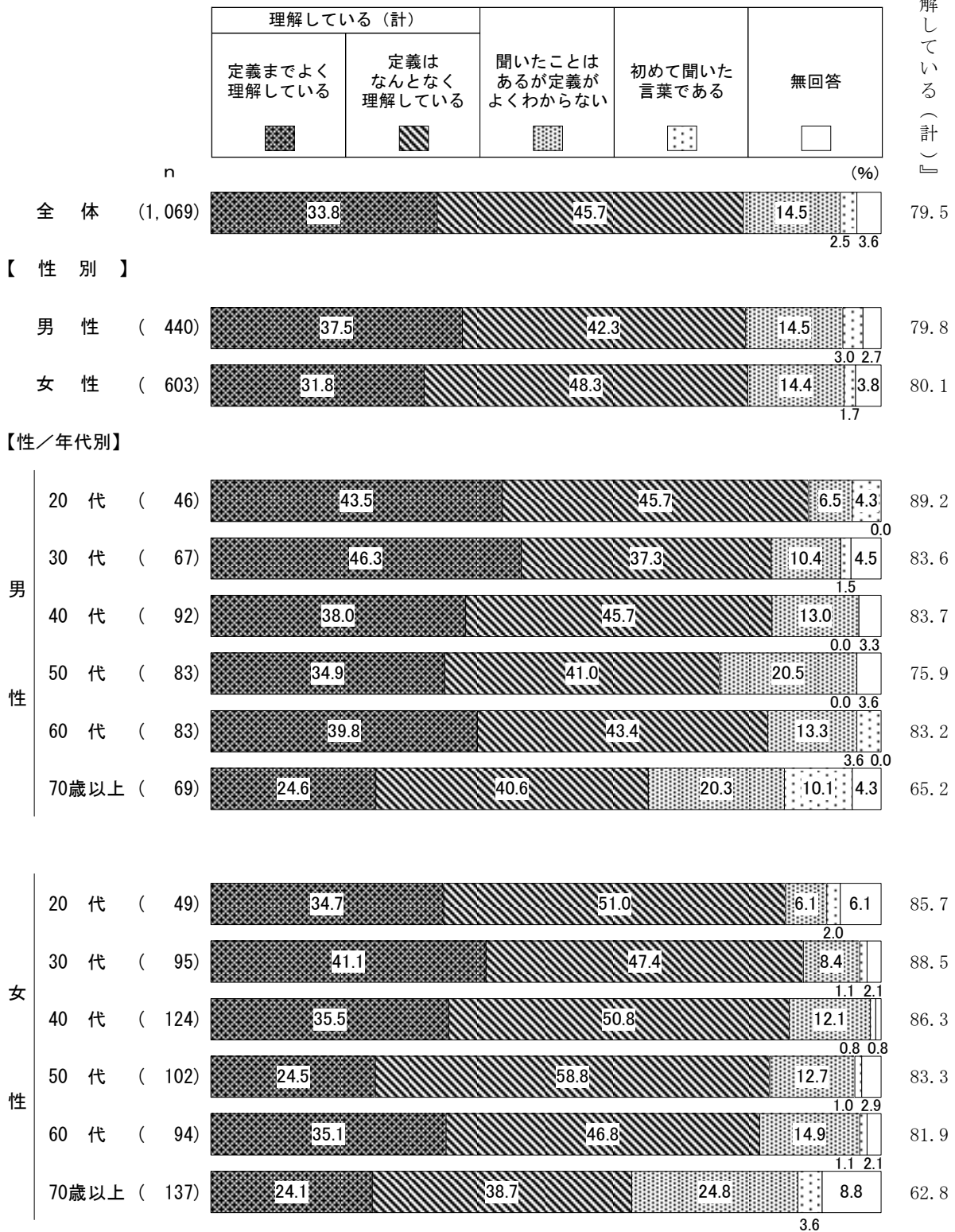
◇「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している(計)』は「バリアフリー」が8割、「ユニバーサルデザイン」が4割半ば



「バリアフリー」という言葉を知っているか聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」(45.7%)が4割半ばで最も高く、これに「定義までよく理解している」(33.8%)を合わせた『理解している(計)』(79.5%)は8割となっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」(14.5%)は1割半ば、「初めて聞いた言葉である」(2.5%)はわずかとなっている。

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っているか聞いたところ、「定義までよく理解している」(15.5%)と「定義はなんとなく理解している」(28.5%)を合わせた『理解している(計)』(44.0%)は4割半ばとなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」(29.0%)は約3割、「初めて聞いた言葉である」(23.3%)は2割を超えている。(図4-1-1)

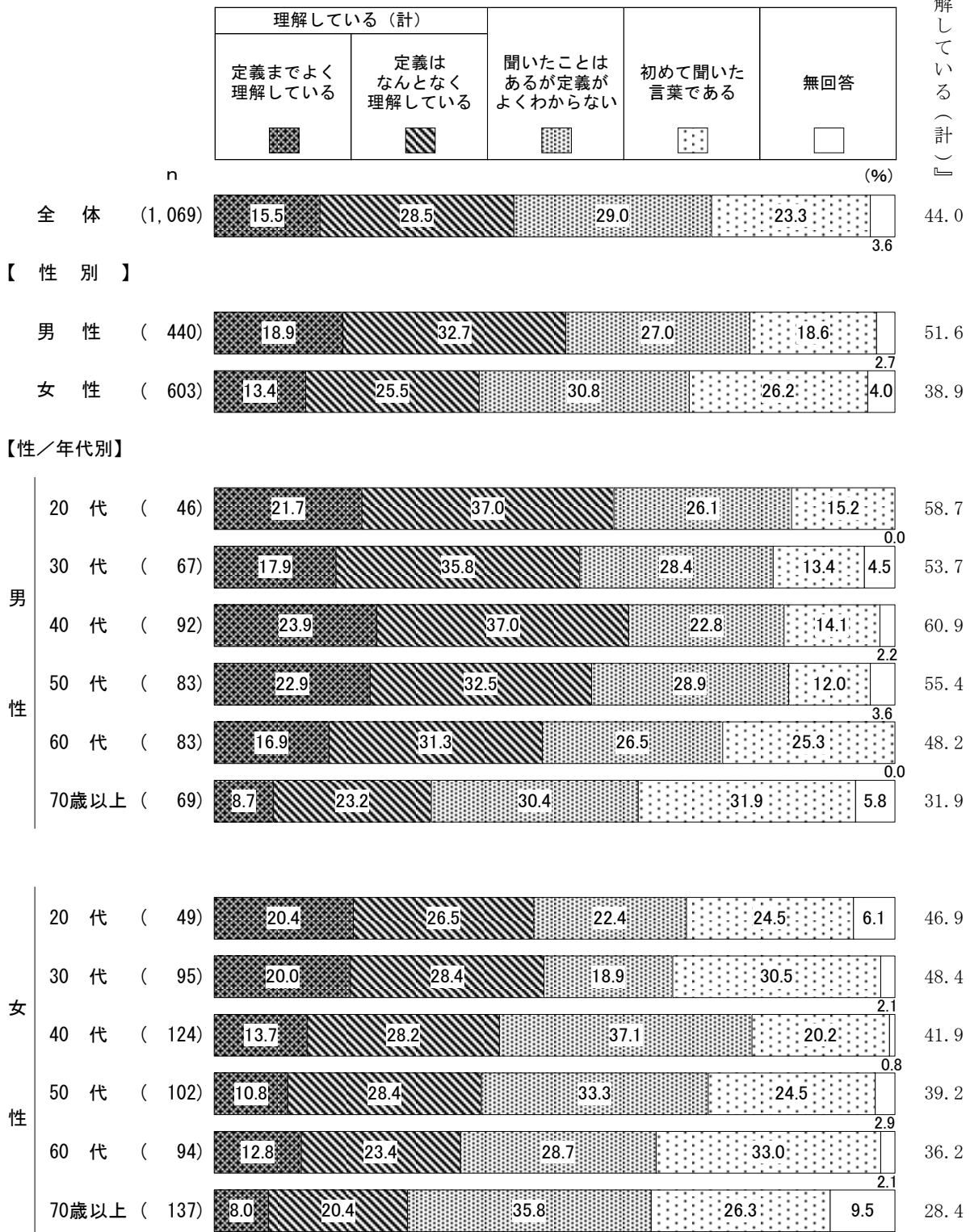
図4-1-2 「バリアフリー」の認知度—性／年代別



「バリアフリー」の認知度を性別で見ると、「定義までよく理解している」は男性（37.5%）が女性（31.8%）より5.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『理解している（計）』は男性20代（89.2%）で約9割と高くなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は女性70歳以上（24.8%）で2割半ばとなっている。（図4-1-2）

図4-1-3 「ユニバーサルデザイン」の認知度—性／年代別

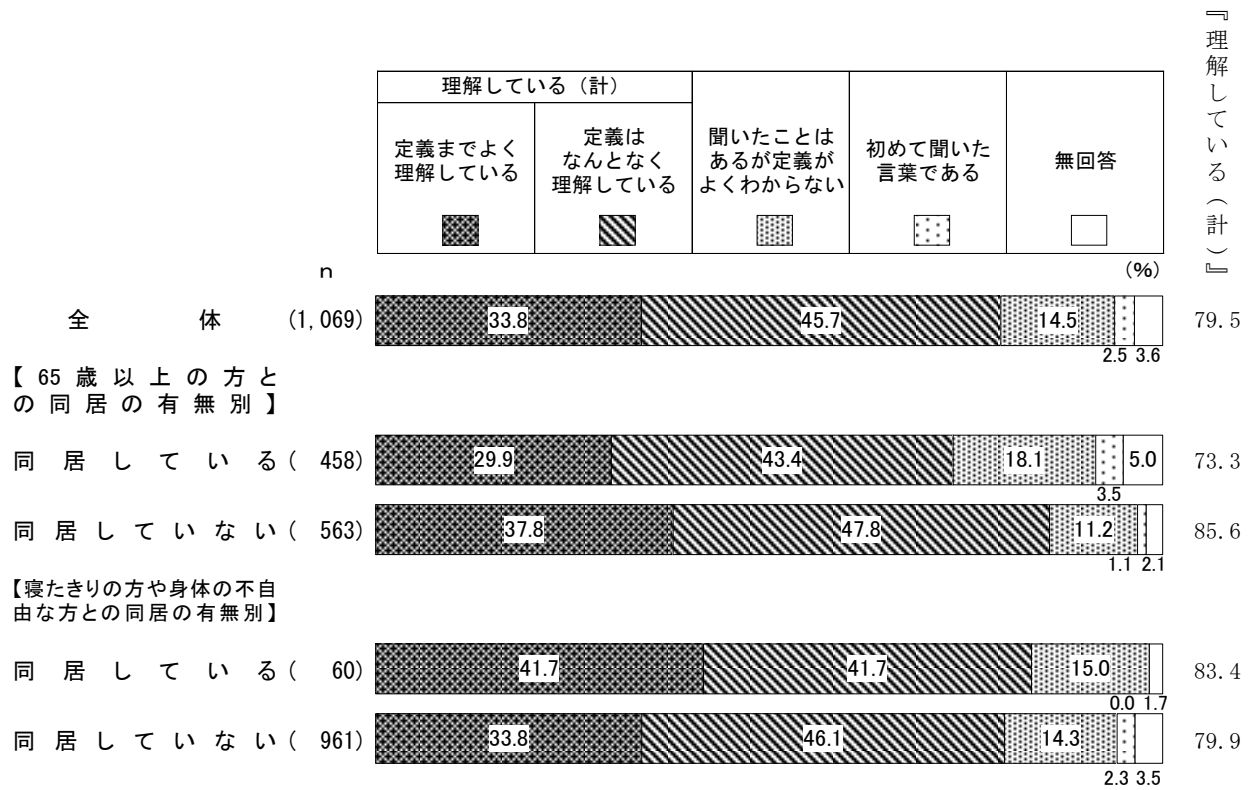


「ユニバーサルデザイン」の認知度を性別で見ると、『理解している (計)』は男性 (51.6%) が女性 (38.9%) より12.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『理解している (計)』は男性40代 (60.9%) で約6割と高くなっている。一方、「初めて聞いた言葉である」は女性の30代 (30.5%) と60代 (33.0%)、男性70歳以上 (31.9%) で3割台となっている。(図4-1-3)

図 4-1-4 「バリアフリー」の認知度

-65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別

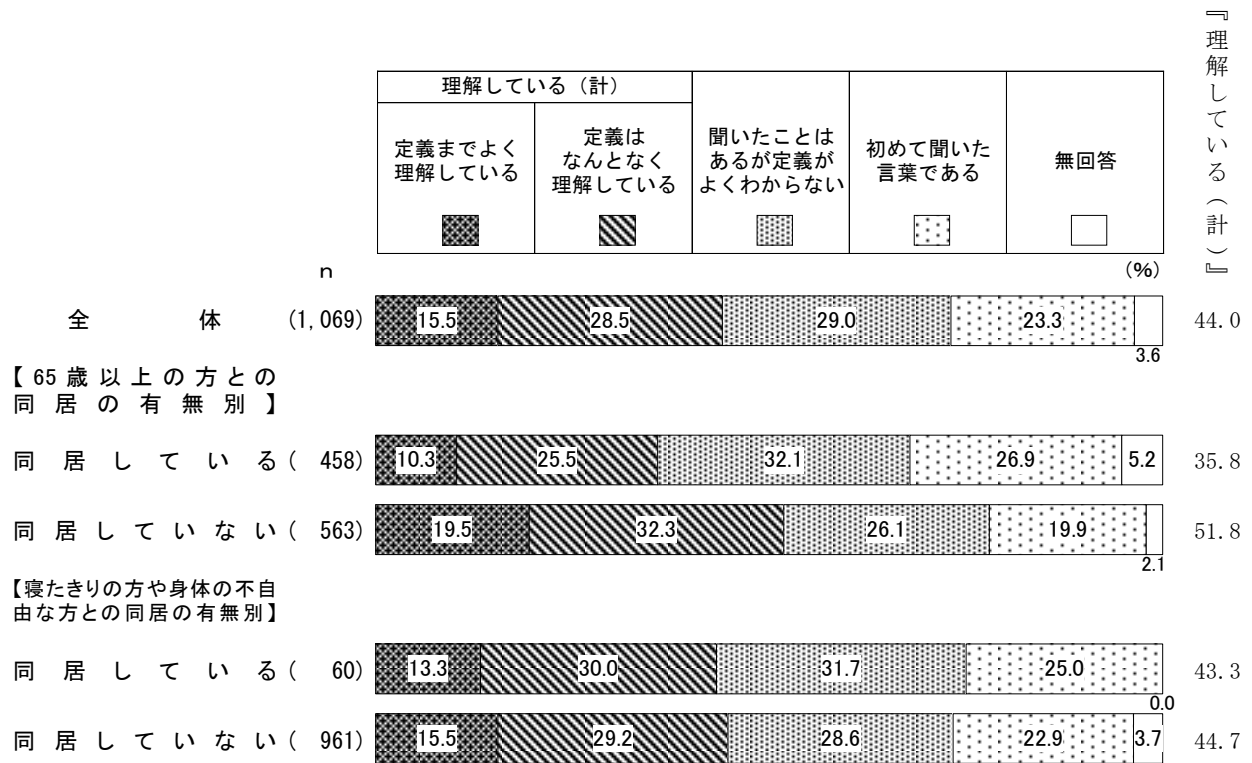


「バリアフリー」の認知度を65歳以上の方との同居の有無別で見ると、『理解している (計)』は同居していない人 (85.6%) が同居している人 (73.3%) より12.3ポイント高くなっている。

寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別で見ると、『理解している (計)』は同居している人 (83.4%) が同居していない人 (79.9%) より3.5ポイント高くなっている。(図 4-1-4)

図4-1-5 「ユニバーサルデザイン」の認知度

—65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別



「ユニバーサルデザイン」の認知度を65歳以上の方との同居の有無別でみると、『理解している (計)』は同居していない人 (51.8%) が同居している人 (35.8%) より16.0ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は同居している人 (32.1%) が同居していない人 (26.1%) より6.0ポイント高くなっている。

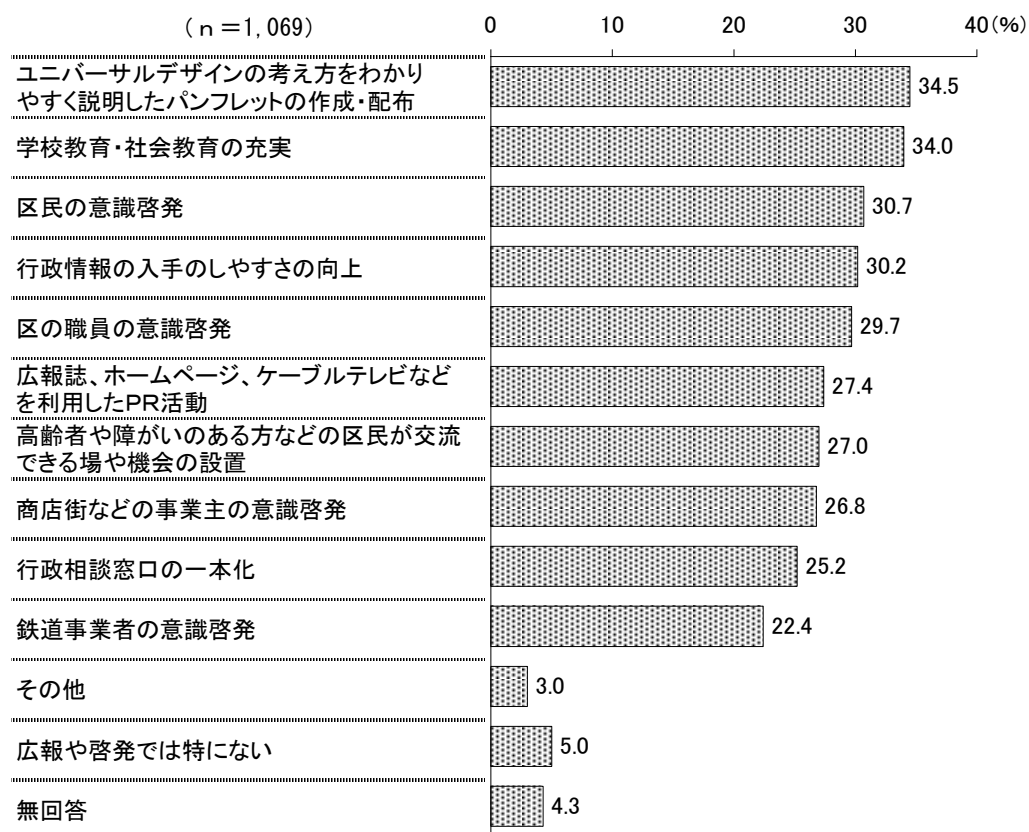
寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別でみると、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は同居している人 (31.7%) が同居していない人 (28.6%) より3.1ポイント高くなっている。(図4-1-5)

(2) 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の実施策

◇「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」と「学校教育・社会教育の充実」が3割半ば

問8 バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、広報や啓発活動で区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図4-2-1

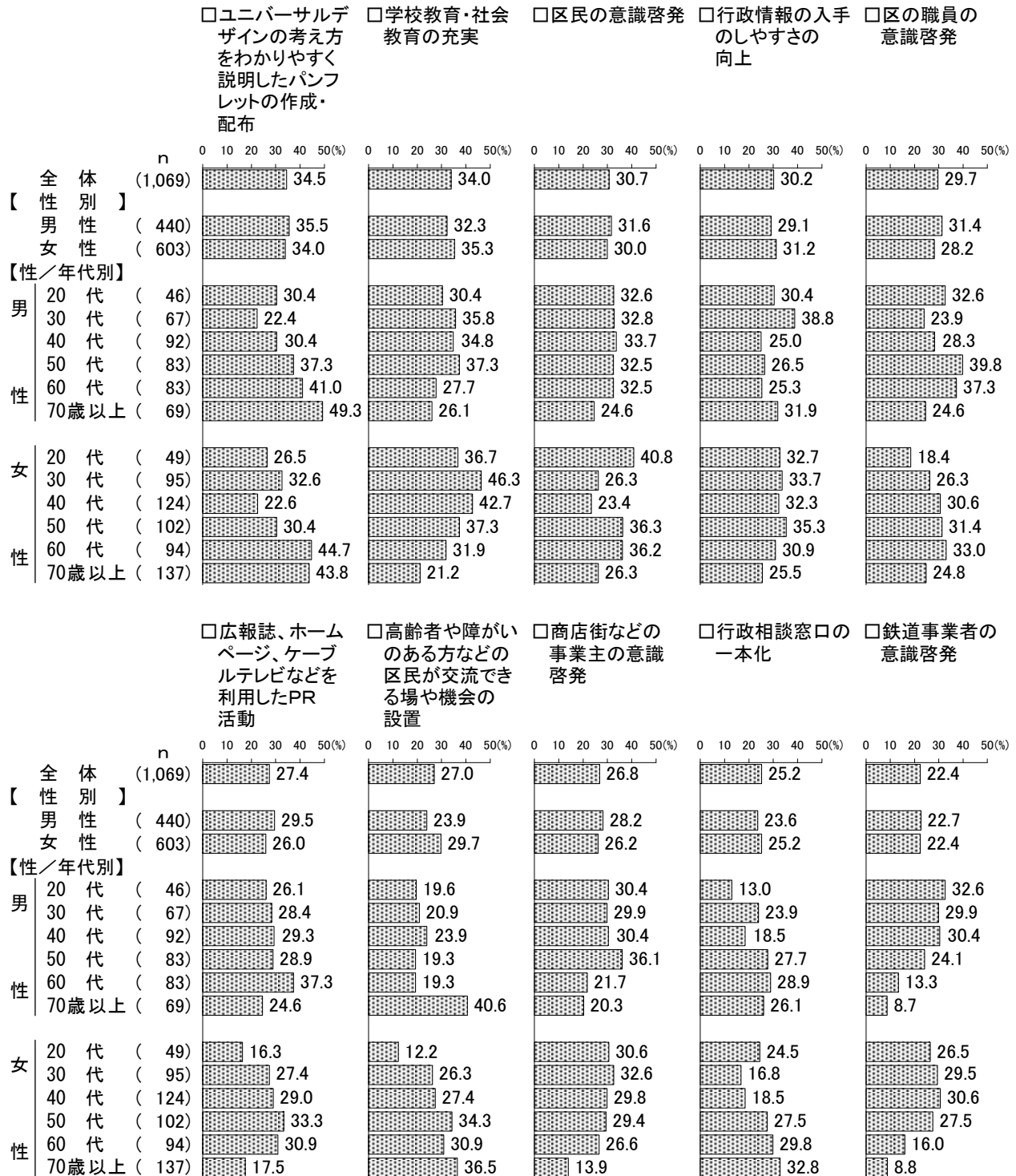


「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の実施策について聞いたところ、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」(34.5%)と「学校教育・社会教育の充実」(34.0%)が3割半ばで高く、次いで「区民の意識啓発」(30.7%)、「行政情報の入手のしやすさの向上」(30.2%)、「区の職員の意識啓発」(29.7%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「バリアフリー、ユニバーサルデザインを体験できるモデル施設づくり」、「ニュースや情報番組などテレビ放送」などがあげられている。(図4-2-1)

図 4-2-2 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の実施

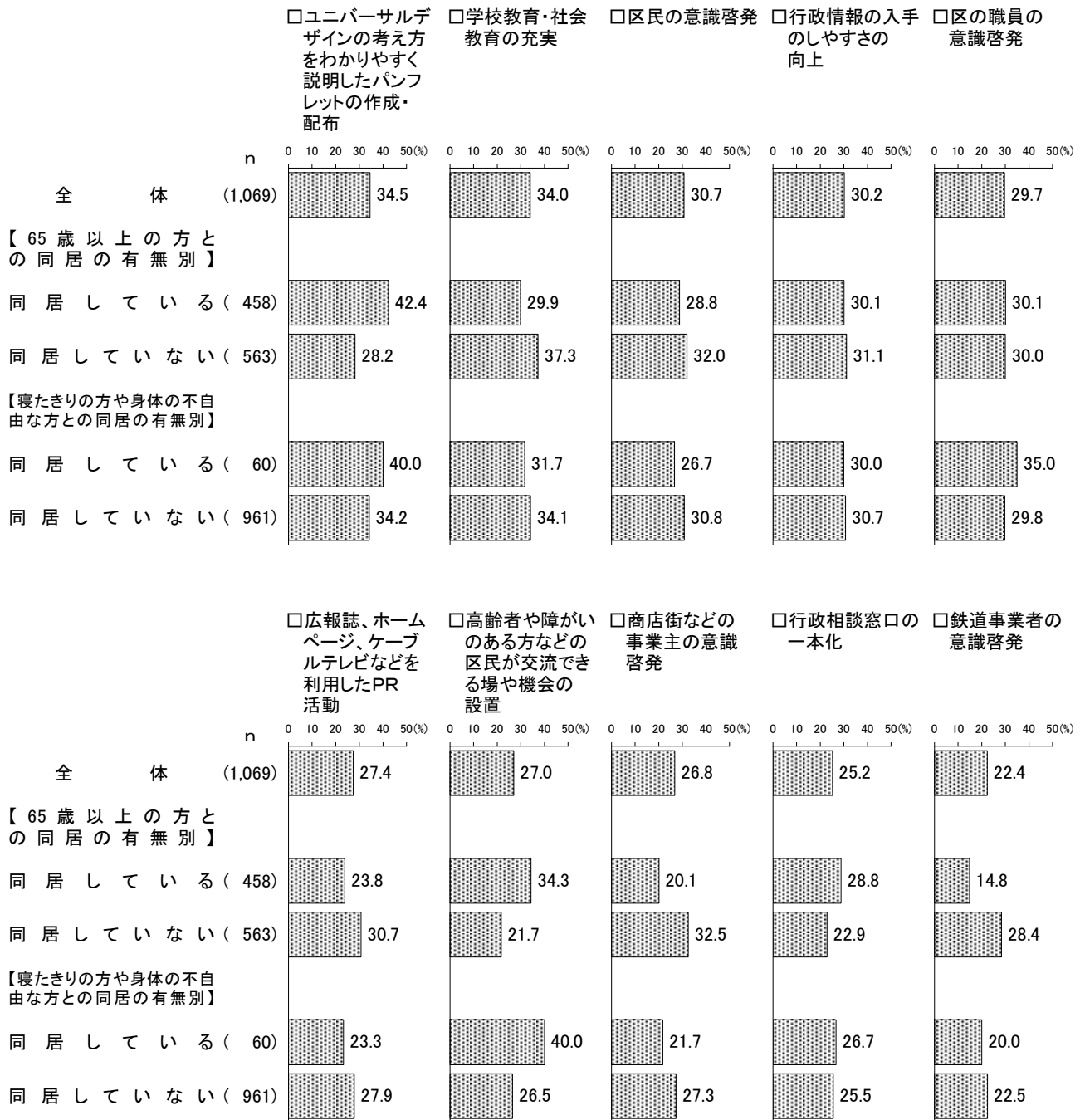
—性／年代別



性別で見ると、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」は女性（29.7%）が男性（23.9%）より5.8ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」は男性70歳以上（49.3%）で約5割となり、「学校教育・社会教育の充実」は女性30代（46.3%）で4割半ばとなっている。（図4-2-2）

図4-2-3 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の取組み  
 -65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別



65歳以上の方との同居の有無別でみると、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」は同居している人（42.4%）が同居していない人（28.2%）より14.2ポイント高くなっている。一方、「鉄道事業者の意識啓発」は同居していない人（28.4%）が同居している人（14.8%）より13.6ポイント高くなっている。

寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別でみると、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」は同居している人（40.0%）が同居していない人（26.5%）より13.5ポイント高くなっている。（図4-2-3）

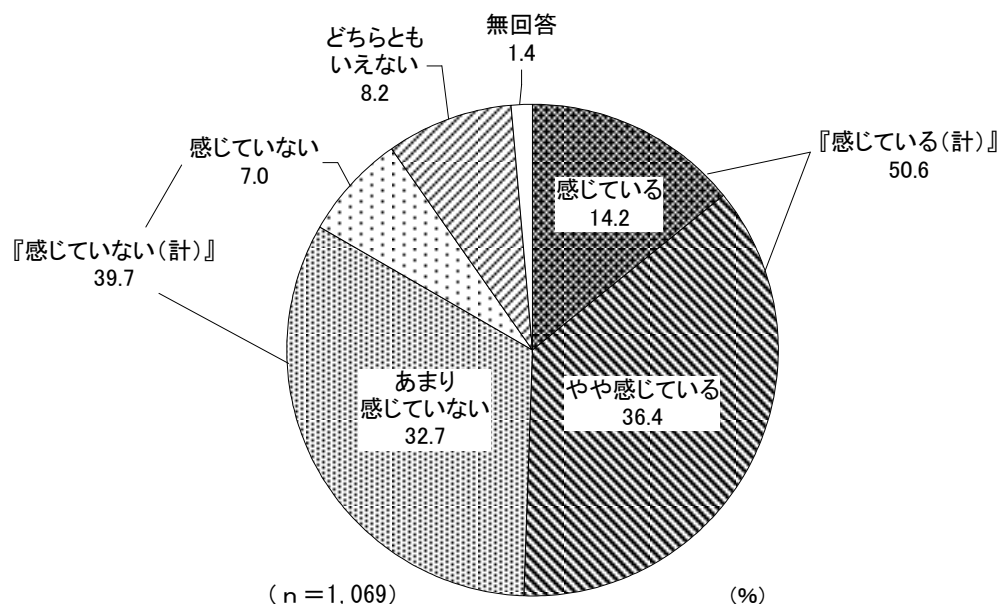


### (3) 駅周辺のバリアフリー化

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は約5割

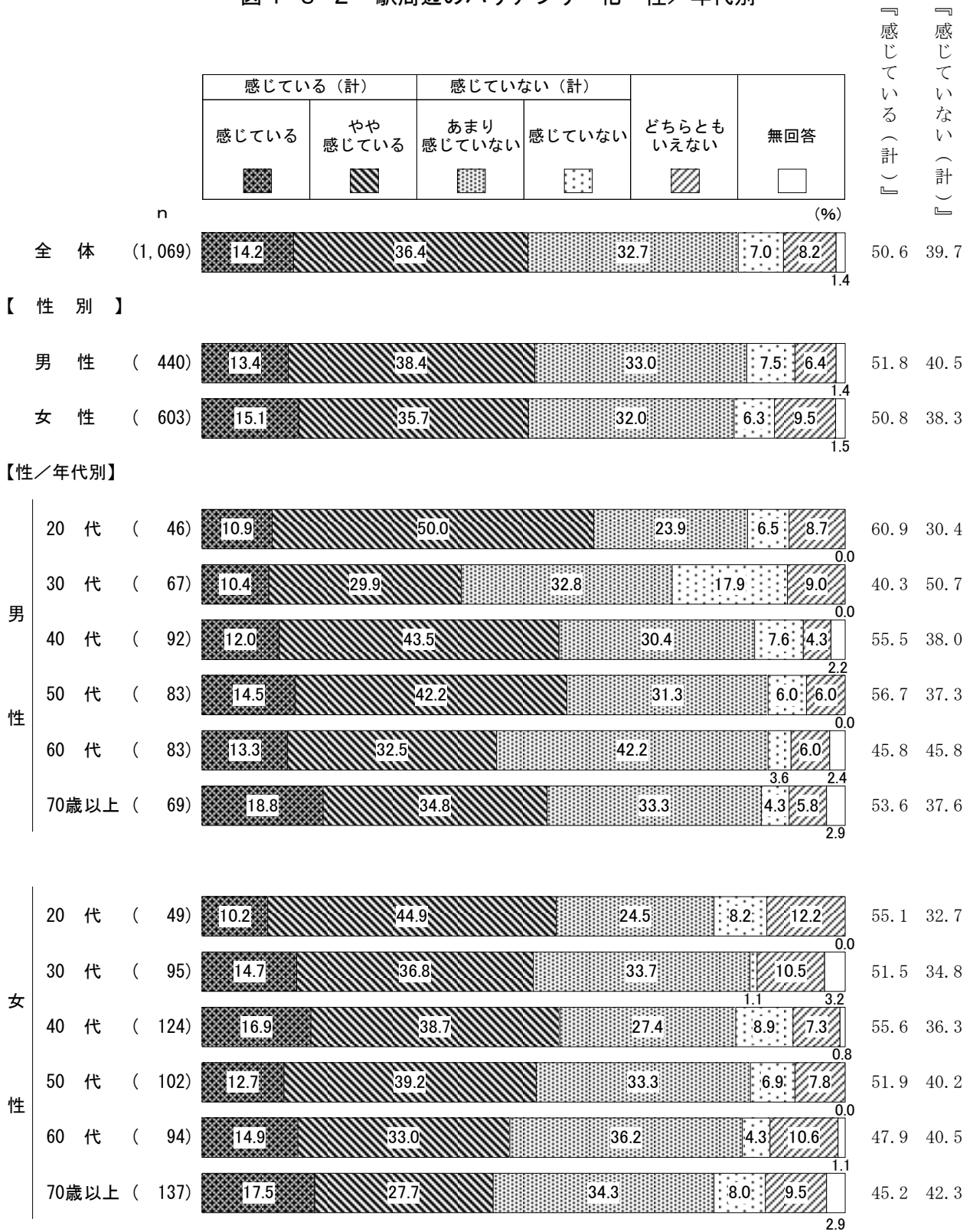
問9 駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じていますか。(○は1つだけ)

図4-3-1



駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じているか聞いたところ、「感じている」(14.2%)と「やや感じている」(36.4%)を合わせた『感じている(計)』(50.6%)は約5割となっている。一方、「あまり感じていない」(32.7%)と「感じていない」(7.0%)を合わせた『感じていない(計)』(39.7%)は4割となっている。(図4-3-1)

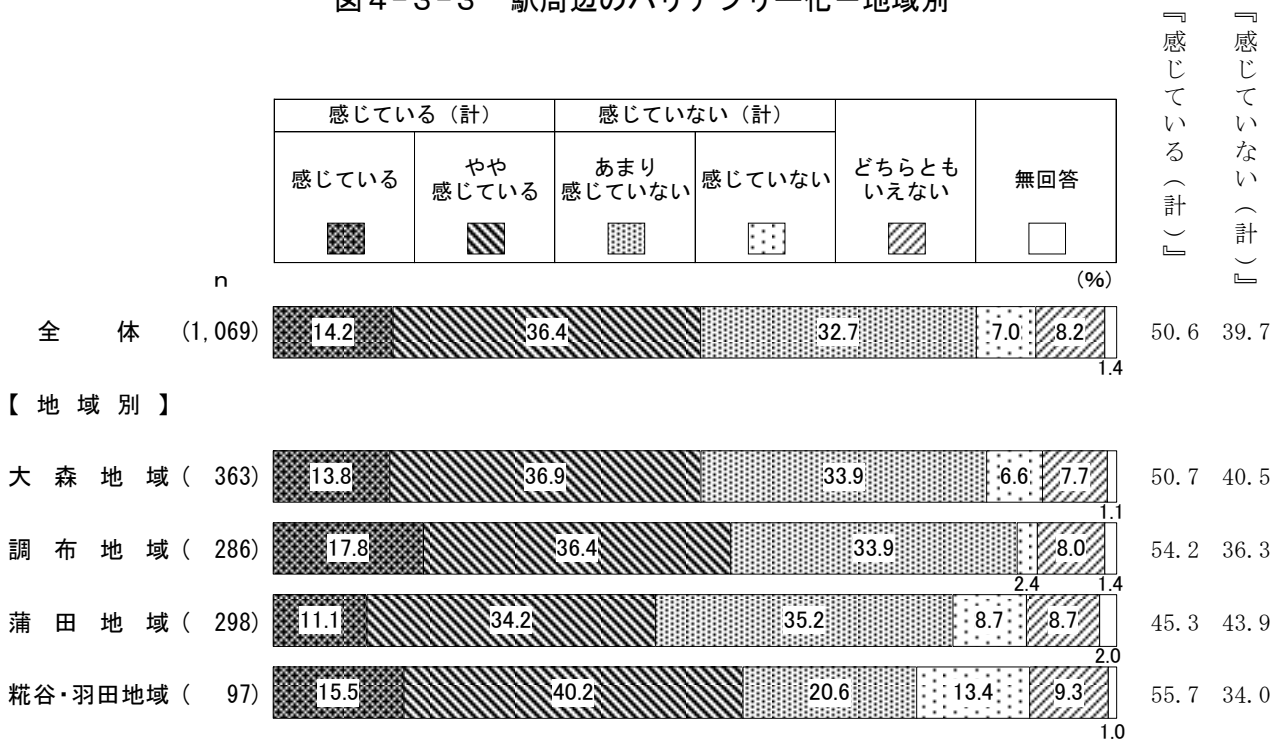
図 4-3-2 駅周辺のバリアフリー化—性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は男性20代 (60.9%) で約6割と高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性30代 (50.7%) で約5割となっている。(図 4-3-2)

図 4-3-3 駅周辺のバリアフリー化—地域別



地域別でみると、『感じている (計)』は糀谷・羽田地域 (55.7%) と調布地域 (54.2%) で5割半ばとなっている。一方、『感じていない (計)』は蒲田地域 (43.9%) で4割を超えている。

(図 4-3-3)